



ちず つく 地図はどうやって作ったの

ちず さんかくてん き 地図のもとになる「三角点」を決める

わたくし せいかつ なか ちず がっこう なら ちず ばあい
私たちの生活の中には、いろいろな地図があります。ここでは、学校で習う地図の場合
せつめい
で説明してみましょう。

ちず つく ち ちやま かわ かいがん しま はげ た ばしよ
地図を作るには、まずその土地のようす、山や川、海岸や島、畑や田んぼなどの場所を
しら べなければなりません。そのために、器具を使ってその場所の測量をします。その測量
きぐ つか ばしよ そくりよう
のもととなる場所を決めなければなりません、その場所を「三角点」といいます。この
さんかくてん さんかくてん ばしよ さんかくてん
三角点は、日本全国に6万6千か所くらいあり、地図のもととなります。

こうくうしゃしん さいけんとう 航空写真で再検討

さんかくてん かみ か ちず いま
この三角点をまず紙に書き、それをつなげていくことによって、地図となります。今で
は、この地図を作ったあと、飛行機でその上を飛び、航空写真をとって地上で作った地図
ちず つく ひこうき うえ と こうくうしゃしん ちじょう つく ちず
とてらしあわせ、まちがいないかどうか、修正が必要かどうかを検討したうえで、正確
しゅうせい ひつよう けんとう せいかく
な地図作りをしています。

そくりよう ひと やま とち で
測量をするには、人がふみこんだことがない山や土地に出かけなければなりません。そ
うして正確に測量を行わないと、できあがった地図がまちがってしまいます。そんな苦労
せいかく そくりよう おな ちず くるう
を重ねて、地図は完成するのです。ふだん、なにげなく見ている地図も、多くの人たちの
かさ ちず かんせい み ちず おお ひと
るうりよく つく
労力があって、作られるものなのです。（監修・保岡 孝之）

